平成　24　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0472200443		
法人名	社会福祉法人鶴寿会		
事業所名	グループホームさわやか		
所在地	宮城県柴田郡川崎町大字川内字笊畑8ー3		
自己評価作成日	平成24年　11月20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4－2－8　テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成24年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

木造の建物が自然の中にうまくとけこみ、ゆったりと穏やかな気分で過ごして頂ける環境を整えていくためにには最適です。四季の変化を感じ取るのに充分な散策道があり、交通量も少ない為、安心して楽しみながら散歩が出来、努めて外に出るように支援をしています。一人ひとりの利用者様の持てる力に着目し、役割等や生活の色々な場面で発揮できるよう支援を行っています。又、次への意欲に繋がって行く様な声掛け・感謝の言葉は必ず伝えている。レクリエーションとして、午後のおやつ時に全員で歌に合わせた体操・童謡・ナツメロ等の歌う機会を多く取り入れ、健康維持・ストレス解消に繋げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

川崎バイパスから国道457号線を北に向かった。民家も疎らになった山間にグループホーム「さわやか」が見えてくる。同敷地内には同法人が運営する特別養護老人ホームと軽費老人ホームがあり、災害総合訓練を合同で実施するなどの連携がとられている。自然の中で四季折々の変化を感じながらの生活が「ホームの自慢です」と職員は口を揃える。入居者が気持ちよく過ごせることを優先してケアに努め、毎月の「支援・業務目標」に介護への積極的取り組みがうかがえる。入居者の残存能力に着目し、自己決定による満足感・達成感で笑顔の絶えない生活に取り組む職員の一生懸命さが伝わってきた。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名　さわやか　　)「ユニット名　　」

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年1回、全職員で「さわやか」独自の理念を掲げ毎日朝礼前に理念の唱和を行いながら再確認し、日々のケアに繋げています。理念を踏まえた上で、一人ひとりの職員に目標を話してもらってから仕事に入っています。	職員が今日の目標に掲げたのは「来客があっても穏やかに過ごせるケアをする」「美味しいものを提供したい」だった。毎月の目標には「清掃活動」や「感染症」がうたわれている。ケアへの意気込みが実践にされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる催し物には、可能な限り参加をしその中で地域の方たちとの交流を図っています。買い物やドライブ等で町内に出掛ける機会を多く持っています。又、近隣への散歩等を通しての交流もあります。	法人主催の夏祭りには、家族や住民100人ほどが参加し、車椅子での盆踊りやゲームを楽しんだ。高校生が清掃や除草のボランティアに訪れる。隣人となっている経費老人ホームの住民との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の普及活動一環として、職員が町から任命を受けキャラバンメイトの一員として地域の人たちに認知症の人の理解や支援方法を伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回地域の方達・ご家族様・町の職員・地域包括センターの職員に参加をして頂き開催しています。地域の方達が何を望んでいるか等の地域・町からの情報交換の場になっている。会議の内容を全職員で回覧し、どんな話し合いが行われているか確認しあっている。	会議録では、各メンバーが遠慮なく発言出来ているのが確認できる。提言を見ると昼間1人世帯へのサポートなど地域の高齢者全般にわたる議論があり、高齢者福祉の拠点として、期待されていることが分かる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町主催の研修会等には、必ず案内を頂き必ず参加をしている。地域包括センターよりグループホーム職員向けに介護技術勉強会の研修会を開催して頂いています。感想や勉強になったことの報告書を提出し、協力関係を築いています。	地域包括支援センター開催(毎月)の「介護技術勉強会」では、福祉用具の選び方や腰痛対策など現場に活かせる学びがある。町のイベントでは要請に応じて、認知症の普及活動を行なうなどの協力関係ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯は、防犯防止のため施錠はしていますが日中帯はオープンにし、抑圧感のない見守りと職員間の連携を密にしています。身体拘束については、定期的に研修等に参加をし報告会をしながら身体拘束について全職員で再確認をしながら日々の支援に取り組んでいます。	強制や叱責と受け取られかねない言葉使いに注意し、職員同士で指摘し合うなど入居者が萎縮しない対応に心掛けている。職員がストレスを溜め込んで発生する不適切対応を未然に防止するため、管理者が職員に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議等で学ぶ機会を持ち、職員がストレスを溜め込まないようなチームとしての取り組みを大切にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、参考資料等を基に職員会議で話し合い勉強する機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を納得が得られるようなるべく一人ではなく二人(職員側)が同席し、ゆったりとした雰囲気で行えるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とは、お便りや電話・面会時等、あらゆる方法で連絡を密に取り合いさりげない会話の中から要望等を引き出せるようにしています。懇談会を実施し、内容等について記録をし運営推進会議等で内容について報告をしています。	日頃から家族との信頼関係があるせいか意見や要望は出ていない。写真で綴る「さわやか便り」(毎月発行)は、ホームでの楽しい生活の様子がよく分かる。家族のアンケートでは、ホームへの感謝が述べられていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全職員が参加をする職員会議や毎日の申し送り時、週1回のケアカンファレンス時に職員の意見や提案を聞けるようにしています。	「入居者に気持ち良い」を生活の中心にして、尿採りパッドやポータブルトイレの使い方の提言があった。また、「入居者の持てる力を発揮する」観点から「米をといでもらったらどうか」の意見を活かしたこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施しています。資格習得の推奨・職員の能力に応じた研修等に参加をし、職員が向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務歴やレベルに合わせた研修会に参加をしている。又、月1回の職員会議時に介護技術の勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームやグループホーム協議会に加わり交流をし、ネットワーク作りや勉強会を行っています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分なアセスメントを行い、ご本人様がゆったりとした空間でご自分の思いを伝えやすい雰囲気をつくるよう心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一件説明するごとに確認を取りながらわからない事、心配事などに耳を傾け受け入れられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントのための情報収集シートを活用し必要としている支援を見極め生活歴と合わせてサービス対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	着る物や使用している物は、ご本人様とご家族の方に相談しながら昔ながらのこだわりからかけ離れないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事においても先取りしてしまわず利用者様のペースに合わせ、出来る事を引き出していけるような支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染んできた場所への外出を支援し、知人との昔話や関係を継続できる様にしている。又、馴染みの美容室にて髪を切ってもらっている利用者様もおります。	仏壇にお茶を供えたり、食事の準備をするなど入居前からの習慣を継続できている。ホームの行事では家族と一緒に過ごすなどの支援をしている。自宅が近くにあることで馴染んだ地域に住まう安心感があるようだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好な関係性を保つ為見守ると共に必要があれば職員が間に入り支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所された方については、お見舞いに行ったり退院後の入所施設等についてもアドバイスできるよう相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	献立を立てる際には利用者様の食べたい物等要望をなるべく取り入れ、誕生日にも好物のメニューを工夫し提供している。入浴時間も要望にそえるよう検討している。	地域性もあってか入居者の口数は多くない。入居者の感謝されたい・褒められたい気持ちを汲み取って、職員は「ありがとう」や「すごい！」の言葉で伝えることを大切にし、次への行動意欲につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や前ケアマネジャー、ご本人からも話を伺い生活歴や馴染みの暮らし方についての把握に努めると共に、入所時には馴染みの家具や食器を使用して頂き、生活の環境が大きく変わらないよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの１日の様子や過し方気づいた事などを日勤者が記録をし、申し送りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを基にご本人、ご家族、関係者と話し合い、ケアカンファレンスにて経過を確認しあい、その後の支援方法を導き出している。	職員会議で課題とニーズについて話し合い「課題検討用紙」にまとめ、計画作成に活かす。家族の「好きなことを」や医師の「主食量を制限・便の確認」などの意見も活かされる。遠方の家族には郵送で同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤者が中心になって記録を行いこの記録を基に申し送り引継ぎをし、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方で墓参り等の要望があればご家族とのお話し合いの元に行っている。信仰心が強い利用者様には毎朝のお茶を欠かさずお供え出来るよう支援しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町主催の文化祭や催し行事に参加をし、楽しんで来ています。町立病院の通院の際、売店での買い物を楽しみにされている利用者様もおります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様が付き添えない際には希望より付き添い送迎を行っている。ご家族様が付き添う場合には、症状を簡潔に説明できる様お話したり、書面等でお渡ししている。	訪問診療や眼科往診を受けることが出来、受診している入居者もいる。必要に応じて敷地内の同法人施設の看護師に相談することができ、軽症の場合は（皮膚疾患など）処置をしてもらうこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常に気付いた際はすぐに同法人の看護師に相談し診て頂き、適切な受診や看護につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院入院時には、症状に至るまでの経緯やADL状況等についての情報を提供している。入院中は様子を身に行きながら、担当看護師等との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については年1回ご家族の方にアンケートを実施したり、ご家族様との懇談会の中での話し合いでも取り上げている。県外在中のご家族様が面会に来た際には必ず話し合いの場を設け、終末期のあり方について確認をし合っている。	「ターミナルケア（看取り）の指針」で基本方針を示し、アンケートの「ターミナルケアにおける確認書」では、終末を迎える場所や付き添い・医療処置・心的物的環境の整備について家族の意向を確かめている。他に具体的連絡方法や葬祭についても話し合う。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受けている職員でも期間が経過している者については繰り返し受講し、忘れないようにすると共に新しい情報も得るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回日中帯・夜間帯を想定し、合同での応援・通報・避難の訓練を実施しています。毎月ごとに夜間想鄭避難訓練を実施し、全職員がスムーズに避難できる方法をマニュアルに沿って身に付けている。合わせて地震の際の避難方法も実施している。	合同で実施する総合訓練は、持ち回りで行なわれている。初期行動の重要性をよく理解しており、全職員が対応できるよう独自に「夜間時の避難」（毎月）を実施している。反省に出た課題解決への取り組みを期待したい。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや呼び名に気をつけ一人ひとりの尊厳を損なわないよう思いやると共に、着替えや排泄支援時には戸や窓を閉めプライバシーを損なわないよう気をつけている。	名前を呼ぶ事の意味について「自分らしくあることの実感」（人格の尊重）であり、対人援助の基本であることをよく理解している。人生の先輩として失礼のない言葉使いや行事の仕来たり・経験を教えてもらう等している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの際には、ご本人様に選んで頂くように声掛け支援を行っている。食事介助の際にもメニューを説明し、何から食べたいか等を伺っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間・入浴時間については、臨機応変に対応しています。基本的な1日の流れはありますが職員側の都合にならないように利用者様のペースを大事にしながら支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの店で、ご自身で選んで購入する支援や色々な行事や出掛ける際にはその場に合った服装ができるように一緒に選んだり、アドバイスをしたりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	米とぎや野菜切り、炒め方等利用者様が出来る事を楽しみながらできるよう支援をしている。後片付けも無理強いせず積極的に手伝いに参加して頂けるよう楽しい雰囲気をつくるようにしている。	食堂に漂う料理の匂いやメニューを話題にして、入居者の食欲に働きかけ、楽しい気分で食事ができるよう努めている。目の不自由な入居者には食材を説明しながら介助するなど、一緒の食卓は和やかである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量については個人ごとの記録用紙に時間を追って記入して健康状態の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、個々の利用者様の能力や口腔内の状況に合わせて、洗口液や歯ブラシ、舌下ブラシ等を使用し、口腔内の清潔保持につとめている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用量を軽減し、不快感な時間をより少なくする為毎食後にポータブル支援を行ったり、トイレに行きたいサインを見逃さずにトイレ誘導を行うことによりトイレでの排泄や排泄での自信に繋げています。	入居時に足元が不安定な入居者のリハビリパンツを、立位を保ち自力歩行へと促し布パンツになった例がある。繊維食物を摂取するなど、一人ひとりに合わせた適切な誘導・支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認は毎日行い記録にしている。スムーズな排便を促す為に寒天・ヨーグルト等を工夫し、提供をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	水曜・日曜は、入浴は休みとなっていますが要望があれば臨機応変に対応できる様努力をしています。入浴中は、個々にあった好みの歌を提供したり、昔話を一緒にしたりと楽しみのある入浴を実施しています。	入居者は気分によって入浴を拒むこともあるが、無理強いはしない。個別の入浴チェック表で観察し、必要時は「温泉に行くよ」など会話で気分を盛り上げて誘うなど工夫している。どの入居者も入浴は大好きだという。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れて居眠りをされているような時には居室で休まれるように声がけしたり、一人で寂しいようであればソファで横になって頂いたりその時の状況に合わせて対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院より薬が処方された場合には、薬局から渡された薬の明細をファイルし、薬の目的や副作用等を全職員で把握するようにしています。又、投薬もれのないよう薬の管理にも気をつけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビでの歌番組や時代劇・のど自慢等楽しみにしている利用者様が多く、テレビ番組のチェックを行い、好きな番組が見れるようにしている。午後のおやつの時間には皆で歌を唄ったり身体を動かしたりして楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の行事や個別外出支援により、担当の職員がご利用者様の意向を踏まえながら出掛ける機会を設けています。天候を見ながら戸外への散歩等を日課にし、地域の方たちと触れ合う機会や季節を肌で感じ取って頂いています。	豊かな自然環境での散歩は移る季節を満喫できる。行事計画の中に外出があり、花見（船岡）や参拝（定義山）、公園などに出掛けている。外食に行くのも入居者の大きな楽しみとなっている。外出は良い気分転換であり「本人のやる気」になると理解している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと不安な方や希望される方には、ご家族様と相談をしお金を所持したり使えるようにしています。買い物や行事で外出した際に買い物が出来るよう支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話はないのでホームの電話の取次ぎをし、要望があった際には掛けられるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節の花等を飾り季節感を味わって頂いたり、行事毎の写真を掲示し、楽しんで頂けるようにしている。テレビやCD等の大音量になったりしないように気をつけています。	玄関先に一緒に作った干し柿が吊るしてある。中に入るとステンドグラス窓の向こうに箱庭が見える。台所は、食堂のテーブルに向き合って流し台があり、入居者も一緒に使える広さがある。廊下ではモップ掛けする入居者など、家庭での風景がそこにあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファ・テレビ前の畳みスペース等思い思いの場所でくつろいで頂けるよう配慮していると共に独りになっていても職員の目の届くよう見守りを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、馴染みの家具や寝具類を持って来て頂き、食器類も使い慣れた物を持参して頂いている。又、衣類等や習慣にも配慮をしています。	どの居室も、住人を思わせる調度品が置いてあり、和・洋の様式もそれぞれである。私物の箱が山になっていたり、プレイヤーや位牌があったりと、自分の時間を楽しみ、好きなように暮らせていることがうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計がわかる利用者様の所には時計をおいて頂き、時計を見ながら行動が出来る様に配慮をしています。朝の洗顔もご自身で出来る方は居室の洗面台で行えるように支援をしています。		